

平成 28 年度第 2 回印西市教育振興基本計画文化芸術編検討委員会 会議録

1. 日 時 平成 28 年 11 月 24 日 (木) 午前 9 : 30 ~ 午後 0 : 00 まで
2. 場 所 印西市役所 41 会議室
3. 出席委員 板倉三郎委員 (委員長)、西田裕子委員 (副委員長)、竹内仁委員、横山護委員、渡邊衛委員、松井宏委員、武藤正凱委員、榎戸洋子委員
4. 欠席委員 なし
5. 事務局 生涯学習課 飯島課長、鈴木、北林
山崎教育総務課参事
6. 傍聴者 1 人
7. 議 事 (1) アンケート報告書について
(2) 教育振興基本計画第 1 次素案について
(3) その他
8. その他 (1) 今後のスケジュールについて
(2) ご意見シートについて
9. 議事録 要点筆記

議事 (1) (2)

～事務局より (1) (2) に関する資料を説明

委員 : 「文化芸術にふれる機会が少ない」というアンケート結果は、確かに実感通りだと思った。それを解決するため、2 つのことを提案したい。

ひとつは、印西市の伝統芸能である神楽や合唱などを市民の身近な場所で公開できる機会を増やしていくこと。市制 10 周年の折に「ふるさといんざい」という歌を制作し、披露したが、こうした活動が市民に十分に認知されなかったと思う。今年の市制 20 周年にも市の愛唱歌を年内に完成させ、合唱団や学校で歌っていただく展開を考えている。伝統芸能や歌などを学校、公民館や地域コミュニティなどの身近な場所で公開できれば、市民と文化とのふれあいの機会も増えると思う。

ふたつ目は、公共施設の整備である。市制 20 周年記念の音楽祭や能などに予算を確保していただいているが、場所が限られていることや、施設のキャパシティが狭いため、たくさんの市民に視聴していただくことがなかなかできない。このことはダンスやミュージカルなどにも共通する。伝統芸能や歌などの PR の方策を立てることで、協力していただける方や観客も増えると思う。

委員長 : 印西市は都市化が進んでいるため、ふるさと意識を持つことは非常に重要である。

委員 : 小学校の統廃合によって、地域の伝統文化である神楽を継承する拠点が消滅してしまう。これまで培ってきたものをどのように継承していくかが大きな課題であり、後継者問題で頭を悩ませている地域が多い。

求められているものと、支援できるものが合致することが良い結果につながるの
で、求められているものに対して、どんな支援ができるかを考えていく必要がある。

近隣の市では、約40年間、途絶えていた獅子舞が地域と一体となって復活したが、その後10数年で一体感がだんだん緩んでいる例がある。伝承分野の継続の難しさを肌を感じている。

委員：協議の前提として次の点を事務局に確認したい。「学校教育観光事業等」、「さわやかコミュニティ」、「それぞれの世代に合った知・徳・体の三位一体教育推進プロジェクト」、「新規事業の定義」、「学びフォーラム」、「学びバンク」、「学びマイレージ」、「三位一体プログラム作成事業」、「子どもをはじめとする次世代の育成」。

事務局：「学校教育観光事業等」は、市内の有名な史跡名所などの案内巡り、JRのウォーキング大会など学校と連携して行っている既存事業のこと。

「さわやかコミュニティ」は、地域ぐるみで登下校時の挨拶運動、学校周辺の安全のための見回りなど、子どもを見守っていく活動であり、PTA、青少年相談員、保安組合など地域で活動している団体をひとつにまとめて学校を中心として活動をしている。中学校区内で6つの団体が入っている。旧印西地区でスタートしており、印旛地区などを含めて市全体として浸透させていきたい。

「それぞれの世代に合った知・徳・体の三位一体教育推進プロジェクト」は、生涯を通じて、すべての世代で「学ぶ意欲、栄養、筋力」を「知・徳・体」として、バランス良く進めていきたい。

「三位一体プログラム作成事業」は、順天堂大学とのタイアップで親子スポーツ教室、学校の部活支援などを行っているが、これを運動だけでなく、栄養面にも広げていきたい。個別にやっていたものをトータルで行っていくということなども新規事業としています。

「新規事業の定義」は、既存事業ではなく、新たに推進する事業を指す。

「学びフォーラム」は、これまで学校教育、スポーツ、生涯学習、文化芸術などで別々に行っていたフォーラムを「学び」として統一していきたい。「学びバンク」は、学校教育、スポーツ、生涯学習、文化芸術などの分野で別々に登録されている専門家を共通にまとめて登録し、多分野で横断的に活躍していただくもの。「学びマイレージ」は、いろいろな活動をした市民にポイントを付与し、市内で使えるようにするというイメージを考えている。「学びフォーラム」「学びバンク」「学びマイレージ」のいずれも、各分野を連携させることでより成果が高まり、活性化が期待できるという考え方に立っている。

「子どもをはじめとする次世代の育成」は、文化芸術などを担っていける後継者を育てるという意味である。

委員：「三位一体」の考え方は理解できたが、「栄養」を「徳」にあてはめることに違和感がある。「徳」は、公共施設を大切に作る、人との連携をスムーズにするための気配りなどが適切でないか。

委員：魅力ある地域、愛着ある地域をつくるのに「徳」は大切なこと。「徳」を再考し、もう少し前面に出し方がいい。

委員：人のために役立つことが大事だという前提に立ち、子どもたちやボランティアの協

力などを「徳」に入れることはできないか。

アンケートの考察に「豊かな心を身に付けた教職員の養成」とあるが、子どもたちの見本となる豊かな心を身に付けた人を先生に採用しているので、教職員が働きやすい環境をつくっていくことの方が大切である。

事務局：「徳」の内容は再度、検討する。

委員：文化という言葉には広い意味があり、人間の生きざまも文化の重要な一部である。こうした観点から考えると「徳育」は文化芸術のジャンルには収まらないものと思う。

「基本方針 1 市民が学びあい・活かしあい、地域を創造する教育の推進」に、「誇りと愛着の持てる地域」という言葉を加え、どのような地域をつくるかを明らかにすることを提案する。

委員：基本理念、基本方針のタイトルは大事であるので、言葉もより練った方がいい。

委員：「基本方針 3 子どもからお年寄りまですべての市民の健やかな心と体を育む教育の推進」で思うことは、子どもとお年寄りは教育の仕方がまったく違うということ。

福島県から移住した子どもがいじめられたニュースがあったが、いじめた子どもたちはもちろん悪いが、地域にも冷たさのようなものを感じてしまった。子どもには教えてないとなかなか気づかないという面もある。弱者に対して温かい心を持つような教えや、文化芸術はひとつの教育になる。この計画には「住みやすいまち1位＝弱者に温かな地域」ということを強調したい。

委員：文化芸術編で長期的、短期的な具体案を提案したい。絵を描く人の高齢化が全国的に進み、美術団体の多くが会員減少に悩んでいる。印西市でも高齢で団体を辞めていく人が増えており、若い人が入らないという悩みを各団体が抱えている。

そこで、以前に絵画協会で行っていた児童絵画展を他の組織や方法でぜひ実施していただきたい。長期的な文化芸術振興という点から、小学生から芸術活動に親しむことは印西市にとって大事になる。

短期的には、印西市で絵画を教える指導者が高齢化のため、芸大受験校の教師などを外部から呼ぶなど、熱意のある指導者を確保したい。

また、芸術活動を拡大していくためには「活動」と「発表の場」が両方ないといけない。印西市で芸術活動を拡大していくためには発表する場も必要である。

委員長：アンケートにも、資金、場所、人材の問題などで活動が減少しているという結果も出ていた。特に育成については、団体ももちろん、市も力を入れて欲しい。

委員：ゆとり教育時代の中学校では、年間を通してふるさとを案内する授業があった。住んでいる地域を巡るといふ貴重な経験を再び実現ができればいいと思う。

獅子舞など市内に伝わる文化や芸術を子どもたちに案内することを現在行っている。ただし、神事と密接につながっている地域の伝統芸能に外部の人間が参加することに、尊敬を込める意味での懸念も若干ある。そのあたりが伝統芸能の難しいことと感じる。

市の歴史資料センターや資料館にあまり行っていないというアンケート結果が出

ていた。年に何度も足を運んでもらうために、展示替えや企画展を行う必要もある。

委員：文化芸術は、絵、書道、音楽というイメージがあるが、食文化、伝統芸能など多種多彩である。学校の夏休みや放課後を利用して多種多彩な文化を子どもたちに伝えていくためには、伝統芸能の獅子舞、工芸品、絵画などの指導者をリストアップすることも大事になる。

委員：伝統芸能の継承に新しく取り組むのは地域にも負担になるので、今、頑張っている人たちを支援することが効果的である。

委員：身近な集会所や老人会などを利用することで融和や親睦も図れる。市全体が良い文化を出し合い、浸透させていくことが大事になる。

委員：陶芸、盆栽などが集まっているのが芸術協会だが、本部はない。部会ごとに活動を行っているが、連携して活動ができれば良い。

委員：他市や大学では、子どもたちや学生に一流の音楽や講演などを鑑賞させ、一流の人間に育てることを行っている。印西市の文化ホールにも一流の人が来てくれるだろう。こうした40年、50年先までを考えることが本来の教育だと思う。

事務局：計画策定では、長期的な視点も大切にしたいと考えている。

計画の柱となる「リーディング施策」として、さわやかコミュニティを核に、学校教育、生涯学習、スポーツ、文化芸術の各分野における人材を集めて「学びのコミュニティ」をつくり、放課後、休日、夏休みなどで子どもたちにこういうことをさせたいという計画を組み立て、学校と地域の両面に活かしていきたい。

これを確立していくには長いスパンが必要なことから、今回の計画は最初の4年間のステップ1として「教育の各分野の連携による充実」をテーマに取り組む。4年後の33年からは、ステップ2として「学びのためのコミュニティの構築」を目標とする。その後のステップ3として「生涯学習社会の構築」をテーマにする。

このように段階的に進めていくことを前提として、今回はステップ1を目標とした中で、ご意見をうかがいたい。

委員：とても良い計画であるが、連携しないといろいろなことが達成できない。現状に何があるかを把握して、そこに新しいものを加えていくことが必要である。

中央公民館などは昔から住んでいる人たちが多く利用し、新しく移り住んできた人たちは違う場所で活動している。新しい人たちを巻き込む施策が必要である。そのひとつとして、どんな生涯学習があるのかをスピーディに情報提供する仕組みもあると良い。

委員：計画素案にある「市民の自主的な活動の支援」をどのように具体的に展開するかが課題である。限られた財政を均等に団体に提供しているやり方を変え、芸術活動をしっかり支えようという団体に対して、より手厚い支援を行っていくことも大切である。

委員：ステップ1が「教育の各分野の連携による充実」だが、文化芸術とスポーツ、生涯学習とスポーツが連携した場合の具体的なイメージができない。

委員：いろいろな連携の形があるだろう。例えば、絵画展のBGMに生の音楽を入れる、

ミュージカルを作る時に音楽家や舞台美術家とのコラボなども可能。また、来日したスポーツ選手に日本の文化芸術にふれてもらい、それを広くPRしてもらおうなど。その都度、弾力的に考えることが良い。

委員：日常の活動での連携は難しいと思うが、発表の場での連携なら問題なく実現できる。

委員：学校教育、スポーツ、文化芸術は縦の糸、生涯学習は横の糸であり、それを調整する重要な役割が策定委員会になる。

事務局：すべてを連携するというのではなく、お互いがウィン・ウィンの関係を構築したい。学校が一番必要なものと皆さんの活動が連携するような発想が原点になる。

委員：例えば、現代の絵画の原点も宗教画だが、絵を理解する時に宗教だけを取り出して見ている人はいない。芸術的な部分を取り出して宗教画を鑑賞しているはずである。日本の伝統芸能の中には宗教色の強いものもあるが、それを否定すると本当の文化の心が分からなくなるので、芸能の部分だけを取り出していくことが良いと思う。

委員長：様々なご意見をいただいた。他のご意見やご質問は意見シートで出していただきたい。

検討委員会はこの後3回しかないが、印西市を魅力ある地域にしていくためには、この計画が大きな要素となってくる。印西市は「住みよいまち」から「住みたいまち」になるために、文化芸術は大切な要素であり、いろいろな活動で魅力をアピールしていくことが必要になる。

印西市では、若手のピアニストや声楽家などのフレッシュコンサートも開催され、その人たちが世界で活躍している。これからは盆栽ガールなども注目されることも考えられる。

財政上の問題もでてきた。文化の財政を確保するために文化芸術振興基金を創り、弾力的に効果的な事業について支援していくという環境づくりも検討する必要がある。

議事（3）

～事務局、委員ともに「特になし」

<その他>

～事務局よりスケジュール、ご意見シートを説明

◇ご意見シートは、1週間を目途に各委員から事務局への提出を依頼

配布資料

- 印西市教育振興基本計画に係るアンケート調査報告書
-結果概要と計画への考察-
- 印西市教育振興基本計画第1次素案
- 印西市教育振興基本計画第1次素案 説明資料
- 会議後意見シート

- 印西市教育振興基本計画に係るアンケート調査報告書
- 用語表記一覧